

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
5	川崎市立川中島小学校	堀江 広志

学校教育目標		今年度の重点目標	
川っ子は かしく やさしく 自分らしく 考えを深めていく子(かしく) 分かり合う子(かしく) 仲間を大切にできる子(やさしく) 感じる心・感謝の気持ちを大切にできる子(やさしく) 自信をもてる子(自分らしく) 前向きに行動できる子(自分らしく)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶことの楽しさ、つくりだす喜びを実感できる授業づくり</li> <li>・互いのよさや違いを認め合い、思いやる心の育成</li> <li>・主体性・協働性を育む特別活動の展開</li> <li>・進んで集団に関わることを通じて、物事の善悪をきちんと判断し、ルールを守る規範意識の育成</li> <li>・学校が好き、自分が好き、友だちも好きと思える子の育成(自己肯定感を高める学校、学級づくり)</li> </ul>	
評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	子どもの自己肯定感を高める	児童・保護者とも良い評価が8割以上をしめ、学校生活を楽しく過ごしていた。今年度は、制限も緩和され、少しずつ学習や行事もコロナ禍前と変わらない活動が行えた。今後も多くの児童が「学校が楽しい」と居心地がよく過ごせるよう支援していきたい。	自己肯定感を高めていくことが子どもたちの学力や生活力の向上につながっていくと考える。子どもたちはよいところは認められ、ほめてもらうことで自己肯定感が高まる。今後も、学習や係・委員会活動等で自分が頑張っていると感じ、友達や身近な大人から認められる経験を重ねられるよう全教職員で支援を進める。
2	自己肯定感	アンケートから、自分の力を発揮し、自信をもって生活を送っている児童が8割を示していることがわかった。学習活動や当番・委員会活動など様々な場面で、それぞれに活動の場面があり成長している。今後も自信をもって活動の場を広げていくことができるように努める。	コーディネーター、担任、家庭との連携を図り、ケースに応じて外部機関にもつなげることで迅速な対応を心がけていく。また、保護者に引き続きコーディネーターの役割や相談窓口としての周知にも力を入れていく。今後も、教室に入れない児童にはホットルームなどの別室での取り出しを行いハードルを下げていく。
3	図書活動の推進	図書司書を中心に図書ボランティアが、図書室の整備、季節にあった掲示物、図書の紹介などを行った。各学年実態にあった読書指導の方法を検討し、取り組んだ。	読書が好きという児童が約8割いるという結果になった。図書ボランティアによる定期的な読み聞かせや、辞書引き大会を今年度も行った。また休み時間の図書室利用日がコロナ禍で、曜日ごとに学年で分かれていたが、いつでも利用できるようになった。デジタル機器の普及により、本への興味・関心が薄くなっている児童も見られるが、学校では授業で活用したり本を読むことの楽しさを伝えたり、引き続き読書推進に努めていきたい。
4	進んで挨拶する子どもたち	校長と児童コーディネーターによる校門での挨拶朝会や朝の会を通して、あいさつの大切さを指導している。6年生の児童による挨拶の調査やスタンプを使った挨拶運動	これからも学校や地域で挨拶できるよう、挨拶の大切さを朝会や学級指導で伝えていく。代表委員会や高学年が呼びかけることで意識が高まったので継続していく。
5	異学年交流・なかよし班活動	異学年交流「なかよし班活動」の内容を精選し、児童の絆が深まる取り組みを実践した。異学年交流として、1年間を通して感染対策を行った上で、たわわり工作やゲームなど交流活動を進めた。なかよし班活動では、例年通り小さなグループ単位で活動を行っている。	異学年交流の良さを再認識し、なかよし班活動の場面だけでなく行事や日常の学習場面でも交流が進むように、多様な機会と方法を検討していく。
6	事件・事故に対応する活動	「自分の身は自分で守る」を合い言葉に、どのように行動すればいいかを自ら判断できるように指導を進めている。防災訓練では、年度最後の訓練を、予告なしで休み時間に行い、自主的に行動する力の定着を確認したり、コミュニティで「川っ子防災ハンドブック」を作成したり、防災教室を行い、災害時の対応や準備しておくよものなどを確認することができた。日頃の学級指導や長期休業前に全児童が安全に生活できるように全校放送や学級指導で伝えている。	外部機関(警察・交通安全協会など)とも連携して交通安全の意識を高めていく活動を模索していきたい。防災訓練については、いつも決まった日時に行うのではなく、様々なケースを想定し実施していく。今年度、防犯訓練を行い不審者対応について職員も児童も対応ができると思うのでやり方等を考えて継続して行っていきたい。
7	コミュニティスクール	コミュニティスクールとなり17年目である。地域の皆さんとともに歩む学校を目指している。学びの支援、安全、情報発信、学校評価など、学校生活のさまざまな場面でコミュニティのメンバーがサポートしていることを子どもや保護者に伝えてきた。コミュニティのサポートにより、地域人材の活用を活発にしたり、学校環境の向上に取り組んでいる。	コミュニティ便りの発行や学校ホームページでの紹介、掲示板による広報、PTA広報誌での紹介を一層進めていく。さらに、PTAとコミュニティが協働し関わる機会を増やし幅広い広報活動をしていく。コミュニティスクールの活動を見直したり工夫したりして活動を考えていきたい。
8	環境の整備(清掃)	全校で清掃の方法について同じ指導をし定着してきた。みんなですごい場所を清掃する大切さを各学年なりに伝え活動した。	きれいな過ごしやすい学校を重点目標において取り組んでいく。学年によって清掃の仕方に大きく違わないように共通理解を図っていく。
9	きめ細やかな学習・学習形態の工夫	算数については、3年生から少人数指導を導入することで、少人数指導の充実を図った。視覚的な教材を導入し、学習に困難が見られる子への配慮を行った。学年によって、教科担任制やチームティーチング、習熟度別学習を進めるなど、子どもたちのニーズに合った学習を検討し、実践を進めた。	GIGAスクールの設備が整い、4年目となる。GIGAの特性を生かし、個別最適な学び、協働的な学びの授業を推進していく。

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<p>項目1 子どもの自己肯定感を高める 多くの子どもたちが学校生活を楽しく過ごしているのが伺える。特に低学年はハッピーフェスタなど、初めてのイベントや行事などを楽しんでいた。ただ ②あまり楽しくない ①たのしくない と回答した子どもたちもいるので、それが0に近づくよう今後も先生方と協力していきたい。</p>	<p>《本年度のまとめ》 本校は、川崎市のコミュニティ・スクール研究指定校として17年目を迎え、「参画・協働・共汗・共創」を合言葉に、外の風すなわち変化する社会の動きを取り込み、世の中と結びついた授業を展開できるように、地域力をマンパワーとして今年度も「地域とともにある学校づくり」を進めてきた。子どもコミュニティでは、GIGA端末が1人1台になって良かったこと困ったことについて話し合った。自分で調べたり写真を撮ったりすることができ子どもたちも授業が変わったことを実感していた。また、GIGAを授業に関係ないことに使ったり、情報モラルのルールができていない子がいるなどが話題となった。幅広い年齢層との多様な交流の機会となった。 今年度は、コロナが5類になったことでコロナ前のやり方で行事等を行うことができた。運動会での声をだしての応援や水泳学習、PTA主催の親子工作教室やハッピーフェスタなどが行えた。その他、ゲストティーチャーや川中島のまちとのかかわりを大切に学習にも取り組むことができた。 学習指導要領は、実施される2020年からその10年後の2030年ごろまでの間、子どもたちの学びを支える役割を担っている。2030年ごろの社会の在り方を見据えながら、これから子どもたちが活躍することになる将来について見通した姿を考えていくことが重要になる。また、学習指導要領では、各教科の目標が育成すべき資質・能力の3つの柱に沿って構成されている。このことは、学校における全教育課程において資質・能力の3つの柱をもとに、グランドデザインを見直していく必要があると考え検討してきた。学校評価アンケートの結果、教職員、コミュニティ委員、保護者の方からも、3つの柱に沿って育てたい「川中島の子どもたち」についてご意見をいただき、学校教育目標を検討してきた。そこで、学校教育を通して育てたい姿と「生きる力」の理念を具現化する、誰もが覚えやすく親しみやすい学校教育目標を考えた。</p> <p>《次年度に向けての取り組み》 (1)子どもが主役 ～子どもたち一人一人の可能性を伸ばす教育課程の創造～ ◆学習指導要領の全面実施に伴い、新しい時代に必要となる資質や能力の育成を見据えたグランドデザインの検証をしていく➡『社会に開かれた教育課程』の実現をめざす。 ◆コミュニティ・スクールとしての強みをさらに生かし、社会に開かれた学校づくりを推進する。 ◆ギガスクール構想の4年目となる。ステップ3が浸透するように研修・校内研究で推進を図る。</p> <p>(2)教職員の働き方改革について ◆教職員が心のゆとりをもって児童と向き合う時間や授業の準備の時間を確保していくことでやりがい・働きがいのある職場づくりをさらに進めていく。</p>
<p>項目2 特別支援の推進(子ども一人ひとりへの配慮) コロナ禍で子どもたちの活動は制約があり、「密」になることを避ける必要があった。今年度は、アフターコロナの時期にあたり、引き続き感染予防に重点を置きながらも以前と同じ取り組みができるようになった。しかし結果から考察するとその成果が表れているとは言えない。次年度は、子どもたちが年間を通して自主的に活動していることが実感できる取り組みを計画し、実行していくことが望まれる。また、それらの活動を保護者へより効果的に伝える方策にも努めてほしい。</p>	
<p>項目3 図書活動の推進 「読み聞かせが楽しみ」「読み聞かせのおかげで読んだことのない本の話が知れる」など読み聞かせが本に興味を持つきっかけになっている。読書週間の時には図書委員が作ったスタンプカードが用意されていたので、特に低学年はスタンプを集めたいという気持ちがあり、いつも以上に本を借りていた。図書室での本の貸し出しは、借りた物は返すという習慣付けすることにも繋がる取り組みだと思ふ。これからも、子どもたちが本に興味を持つ活動の継続をお願いしたい。</p>	
<p>項目4 進んで挨拶する子どもたち コロナが明け、ほとんどの子どもたちがマスクを着用せずに登校している。そのため、挨拶の声は以前より大きく聞こえ表情も捉えられ、多くの児童が自分から進んで挨拶ができていると思う。しかし、児童と保護者の結果の差が大きいことから、学校内だけでなく保護者からも進んで挨拶することがよいのではないかと考える。</p>	
<p>項目5 異学年交流・なかよし班活動 子どもたちの12月のアンケートでは「なかよし班が楽しい」「もっと交流したい」という意見が7月より増えた。また保護者からは「他学年同士が助け合っている」「高学年が良い手本になっている」との交流の良さを認める記述が増えた。数年ぶりに再会した活動もある中で、成果を挙げられた教職員の指導に感謝したい。</p>	
<p>項目6 事件・事故に対応する活動 交通安全週間の時には、普段の登下校見守り以上に多くの地域近隣町内会の方々が通学路や横断歩道に立ち、たくさん目で見守り活動を実施している。そのため登下校時は交通ルールを守っている子が多いが、放課後、休日など信号機のない横断歩道や十字路での歩行、自転車の乗り方など普段からご家庭でも、もう一度子どもと確認し安全な毎日を送っていただきたいと思う。</p>	
<p>項目7 コミュニティスクール コロナがおさまらずつづる中、これまでの日常に戻りつつあり様々な行事が行えるようになっていく中で学校生活のサポートをすることができ、多くの方々にも周知していただけることを強く感じている。今後も支援活動を通じてサポートができるよう協力させていただきたいと思う。</p>	
<p>項目8 環境の整備 掃除や整理整頓は毎日のことなので気持ちを保つことは難しいが、高学年でも前向きな回答でほぼ9割を占めていることは素晴らしいと思う。学校と家庭での継続的な指導の賜物である。残り1割の子どもたちも巻き込んで、ぜひ10割を目指してほしい。</p>	
<p>項目9 きめ細やかな学習・学習形態の工夫 後期になり学習が難しくなるので毎年、12月の結果は7月より下がる傾向にあるが、今年度は変わらないという結果になった。先生方の学習の工夫などにより、子どもたちが興味を持ち学習に取り組めた結果だと思ふ。これからはGIGA端末の積極的な利用など、子どもたちが興味を持ち学習に取り組める工夫をお願いしたい。児童の結果が高い一方、保護者の結果は低く、家では宿題以外の学習をしていない子が多いのではないかと推測できる。子どもたちは「学校ではしっかりと学習に取り組んでいるので、たまにノートに目を通すなどして学校の頑張りを確認し褒めてあげてほしい」と思う。</p>	